

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503858		
法人名	株式会社フロイデプランニング		
事業所名	グループホーム けあふる白樺		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3-18 (電話) 011-591-1133		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】(11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	(有) (72,000 円)		暖房費10,000円(11~3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350 円	

(4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	3名	要介護2	1名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0			
年齢	平均	82歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛全病院・川沼中央医院・小笠原クリニック・札幌病院 他3件
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

けあふる白樺は、郊外に建てられた開設2年目のグループホームです。2階のホーム内は、バリアフリー、回廊式、床暖房のほか、快適に過ごせる工夫が随所にみられます。1階はディサービスとして使用していましたが、現在は、多目的ホールとして、ホーム行事などに使用されています。今年は、畑も作り、中庭もあるので、今後、地域の交流の場としての活用も視野に入れて考えられています。利用者は、この快適な造りのホームで、自分のペースを保ちながら、穏やかに共同生活を楽しんでいます。管理者、職員は、ケアサービスの向上に熱意をもって取り組まれており、利用者を暖かく見守り支援されています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目(案内表示の工夫、緊急時マニュアルの整備、洗剤の保管、管理方法の取り決め)は、できることから徐々に取り組み、改善に向けて努力されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表者及び管理者は、外部評価の意義を理解され職員に周知しています。職員それぞれが自分の自己評価を作りあげ、管理者が全体の内容をまとめあげています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設時より運営推進会議は未開催の状況です。12月に第1回運営推進会議を開催する運びとなり、現在、開催に向けての準備に取り組まれています。地域密着型サービス導入による、地域との交流や連携の必要性について理解を求めるとともに、さまざまな立場の方がホームのモニター役となり意見反映され、運営やケアサービスなどについてより良い取り組みが実現されることを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を数箇所設け、入居時に説明がされています。12月に第1回家族会の開催が予定されており、意見、不満、苦情などの表出に取り組まれています。また、家族からの意見、苦情は、前向きに受けとめ対処されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し資源回収や町内の草むしりに参加しています。町内行事などにも招待も受け、ホーム主催の夏祭り、無料介護教室を開くなど互いの交流が見受けられます。また、ホームの役割を広く知って頂くために手作り新聞を地域の各所に置き理解を得るよう努められています。徐々に交流が深まっていますので、今後も地域との連携を図られる取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と事業所理念として「高齢者の尊厳と自立と自由を守る」を掲げている。運営方針には「地域を生活圏とした総合的なサービスの提供」を掲げて地域との関係を築くよう努めているが、理念には掲げられていない。	○	事業所と地域との関係性を職員全員で再確認し、地域密着型サービスを含めた事業所独自の理念を作りあげていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝、夕の申し送りや毎月開催されるユニット会議で、理念を基本とした具体的なケアについて意見統一や、日々の気付きを話し合い確認し合っている。管理者は職員の思いを引き出しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、資源回収や町内の草むしりに参加している。町内会行事などにも招待を受け、ホーム主催の夏祭り、無料介護教室を開くなど、互いの交流が見受けられる。また、ホームの役割を広く知って頂くために手作り新聞を地域の各所に置き理解を得るよう努められている。	○	地域との交流は徐々に深まってきている。ホーム主催の行事へ地域住民が気軽に参加できるよう、さらなる啓発活動や地元の理解が得られるよう積極的な取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、外部評価の意義を理解し職員に周知している。職員それぞれが自己評価を作成し、管理者が全体の内容をまとめあげている。前回の改善項目もできることから徐々に取り組み、改善に向けて努力されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設時より運営推進会議は開催されておらず、地域との協力体制の整備に時間を要する状況によるものであったが、12月に第1回運営推進会議を開催する運びとなり、現在、準備に向けて取り組まれている段階である。	○	会議には幅広い立場の人に参加してもらい、地域密着型サービスの実践にあたり、ホームを理解して頂くとともに、メンバーがモニター役となりサービスの質の向上にむけて取り組まれることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表者が市や区の担当者と連携を蜜にし運営などにおいて意見交換がされている。管理者も区の管理者会議に参加しサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、写真入りの「ホーム便り」と、預り金の明細を郵送している。また、3ヵ月毎に「けあふる(行事の様様や次回の行事予定を載せたもの)」も同封している。心身の状況変化が見られた時は電話で家族に報告し、家族訪問時は暮らしぶりなどを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を数箇所設け入居時に説明している。12月第1回家族会開催を予定しており、意見、不満、苦情などの表出に取り組まれている。また、家族からの意見、苦情は、前向きに受け止め対処されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はないが、過去においてやむを得ず離職に至るケースが若干報告されいている。離職希望時は、1ヵ月前に報告してもらい、新しい職員が馴染んで、利用者へのダメージが解消されてから、退職してもらうよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に参加するよう職員に話されているが、職員それぞれの段階に応じた年間研修計画立案にまでは至っていない。内部研修は、法人内で、採用時研修と勉強会（不定期）を開き、職員ほとんどが参加されている。	○	勤務の調整が難しいと思うが、職員それぞれの段階に応じた年間研修計画を立案し、スキルアップに取り組まれることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流の必要性を認識し区の管理者会議に出席した際に情報交換を図っている。職員は、近隣のグループホームを訪問し合い、サービスの質の向上を目指して、交流を始めたところである。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居するまでには、本人や家族の方に2～3回ホームを訪問してもらい、食事風景やレク活動などを見学し、徐々に馴染みながら納得されたうえで入居されるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「私たちが、お茶碗洗い・お茶碗拭きをするから、おいしい食事を作ってね」などの利用者の声からもわかるように、職員と利用者はともに支え、支えられる関係を築いている。また、いつも同じ目線で物事を考え、喜怒哀楽をともにし、生活の知恵を学び合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で、その人らしく暮らせるように、日常の利用者との会話や家族から、思いや意向を把握し、カンファレンスなどで話し合い確認されているが、アセスメント用紙への記載が成されていない。	○	センター方式のアセスメント用紙を準備中とのことなので、情報の確実な記載と職員間の共有に取り組み、介護計画に反映されることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報で、飲水量の少ない利用者には、カンファレンスを通し日々の気付きから色々な工夫を考え、適量の飲水量を確保されたケースもあり、元気に暮らして頂くためには何をしたらよいかを個別に考え介護計画作成に取り組まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員1人に利用者2～3人の担当制でモニタリングを行ない、3ヵ月毎、または、諸変事にカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。現在、センター方式を参考に作りあげたアセスメント用紙への記載と、新たな介護計画の見直しに取り組まれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の24時間健康管理を行なっている。掛り付け医受診や通院介助の支援も行なっている。また、1階デイサービスで使用していた多目的ホールで夏祭り、クリスマス会、ビデオ上映会などを催し、地域の方との交流に取り組まれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の医師の往診（木/週）、訪問看護ステーションの看護師（月/週）による看護、入居前からの掛り付け医受診の支援、ほかに、複数の医療機関との関係を蜜に結んでいる。家族とは受診時における情報伝達や合意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に伴う対応指針書を作成し、入居時に本人、家族に説明し同意を得ている。状態変化ににおいては、家族や掛り付け医と相談しながら具体的な介護方針を取り決め支援に当たっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する言葉掛けは、同じ目線でもに支え、支えられる関係なので、とても柔和な印象を受けた。利用者の職員に対する思いやりの言葉掛けからも、日常の様子が伺える。「言葉の拘束」の勉強会もされている。また、「個人情報の使用に係わる同意書」も作成し入居時に説明がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制しないことを基本に介護がなされている。利用者は、共同生活の中での自分の時間を大切にして、自分のペースで思い思いに過ごされている。日々の買物支援などは、利用者の身体状況を見極めながらできるだけ対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂はリビングと分かれているので、懐かしい音楽を聴きながら、ゆっくりと、職員と利用者が食事を楽しめる空間になっている。利用者のできることやしたいことはお手伝いしてもらい、調理員や職員がおいしい食事を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者それぞれの希望に合わせて、入浴したい日、夜勤帯以外の希望の時間に入浴支援している。入浴を拒む利用者には色々な工夫で対応し、週2回は入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今年は畑を作り、利用者と色々な野菜作りを楽しみ、収穫をみんなで喜んでいる。また、1階多目的ホールにつながる外のスペースで、バーベキューなどをし食事を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や公園などへの散歩は車椅子使用の利用者も一緒に出掛け、気分転換を図っている。行事以外の外出は、利用者と相談しながら出掛けたい場所へ訪れている。近くの温泉やドライブの帰りにはコーヒーやお茶を飲んだりして楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は、夜勤帯のみ施錠し、日中は開錠している。ユニットの入り口は24時間開錠されている。ユニットから出たい様子の利用者には、見守りをしながら、1階多目的ホールで過ごし支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の非難訓練と設備点検を実施している。日勤帯での災害訓練は実施されているが、夜勤時間を想定した避難訓練は実施されていない。運営推進会議が未開催の実情もあり地域の協力体制は整っていない。	○	今後は、運営推進会議などを通じて地域の方々の理解を得ながら協力体制を整えることを期待したい。また、スムーズに避難誘導ができるよう、夜間帯を想定した実践的な訓練実施や災害時における具体策についても取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに、管理栄養士による栄養マネジメントを実施していた。その資料をもとに栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事摂取量や飲水量もその都度チェックし、トータルバランスの確認がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔で、暖かく、使い易い工夫が随所にみられる。ホームは2階に設置されているため眺めが良く隣家の花壇などが見渡せ憩いの窓辺にもなっている。訪問時、食堂の壁一面に大きくて綺麗なクリスマスツリーが飾られ季節を感じさせていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、窓が大きく日当たりが良く、清潔である。家具は本人の使いたい物を自由に持ち込むことができ、3世代物の使い慣れた机を持参し、愛用されている方もいる。利用者の身体状況に合わせ、使いやすいよう整備されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。